

今、教育委員は！

平成 27 年 5 月

教育長 糊澤 晴樹

この 5 月 18 日、本市では新しい教育委員会制度に移行し、改めて教育長の職を拝命することになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

教育への一番の想いは、これまでも折に触れて発信してまいりましたが、子どもも大人も「身を乗り出して前のめりに学ぶ」学校教育・社会教育にしていきたいということでありませぬ。

今世界は、変化の激しい情報化社会を迎えております。オックスフォード大学の准教授マイケル・A・オズボーン氏は、「今後 10～20 年程度で、約 47%の仕事が自動化される可能性が高い」と予測されていますが、このところそういう自動化の事実結構な頻度で出合うようになり、失礼ながら、その予測はまんざら嘘ではなさそうだと思うようになりました。多くの人間が、理解しにくい仕組みやはたらきによって動く日常に対峙しなくてはならない世の中にますますなっていくわけですので、「主体的に生きる」ことはそんなにたやすいことではなくなってくるように思います。

私事ですが、今は昔、愚息が小学生だった頃、その誕生日祝いに精密ドライバーセットをプレゼントしたことがあります。身の回りのいろいろなおもちゃや機器を修理するときの必需品としてでありましたが、分解して、見えなかったところが見えてくるおもしろさを味わえるだけで十分価値のあるプレゼントだとも思っていました。安くて済んだことが何よりでしたが、意は的中し大ヒットでした。しかしながら、今日では残念なことに、分解しても意味ある情報が得られることは少なくなりました。

先日、全国都市教育長会議で神奈川に出張した際、佐久平までの復路の切符を持ちながら用あって途中下車しました。この時、自動改札を通ることはできず、専用出入り口で駅員さんと会話し、証明印を押してもらって用を済ませたのですが、溢れるような人がいても挨拶さえ交わさない空間にあって、人間らしい息づかいができてホッとした瞬間でした。これからの時代、そんな感性も失わないようにしたいと思った出張でございました。

以下は、5月にお見えになった海外の2つの友好都市の来訪トピックスです。

◇ エストニア共和国 SAKU（サク）市公式訪問団来訪

今年の佐久バルーンフェスティバルには、海外2カ国からお客様がお見えになりましたが、市の名称が同じということでご縁をいただいているSAKU市からは、市長さん、市議会議長さん、学校関係者など8名の皆様が来訪されました。市長さんはご挨拶の中で、「今回の訪問の一番の目的は、両国（市）の中学生の交流の実現に向けて懇談させてもらうこと」との思い入れを語ってくださいました。

現在、本市の3つの中学校で、インターネットを使った学校紹介など、SAKU市の学校との交流を行っているところですが、当面はその学習の充実を図ったり、参加校を増やしたりすることが望まれるところです。今後実際の交流体験をするような発展形も期待できそうです。



◇ モンゴル国ウランバートル市スフバートル区公式訪問団来訪

モンゴル国のスフバートル区とは、平成20年に友好都市を結んでいます。このたび議会議員さんを中心に10名の皆様がバルーンフェスティバルにお見えになりましたが、歓迎会等で熱い友好の思いを語ってくださいました。自国の文化を紹介される中では、子を想う母の心を女性の皆さんで熱唱してくださる場面もあり、感動を深くしました。同国には「佐久市ふるさと創生人材



育成事業」により、平成22年から中学生海外研修で訪問したり、また、同国から子ども交流研修団を受け入れたりという行き来をさせていただいております。本年度の海外研修には本市7名の中学生が参加する予定です。グローバル化が益々進展する社会・時代にあって、異文化に触れ理解を深める国際的な交流体験は大変貴重です。日本、ふるさとの再発見にもつながる学習となることでしょう。